

様々ななかかわりの中で学び、社会の一員として貢献できる地域社会人の育成 ～「家庭・社会の期待に応え、夢と自信を持ち、可能性に挑戦するために必要な力の育成」と「個性や能力を発揮して活躍し、学び続ける、活力と連帯感のある人づくり」～										
				評価内容		評価…4段階 A:75%～ B:74%～60% C:40%～59% D:～39%				
No	基本目標	施策	重点内容	評価内容(教師用)	評価	%	児童生徒用評価内容	評価	%	改善の手立て
目標1	夢と自信をもち、可能性に挑戦するために必要な力の育成	①ねらいや学習方法、内容等を明確にし、学びの過程の質的向上を図った授業実践	イ:意図性のある資料を活用した言語活動の位置付けと、よりよい課題解決につながる協働的な学びの実現	<input type="checkbox"/> 学習活動に「学び合う場」を設定し、お互いに考えをを広げ、深めるよう指導している。	B	71.4%	<input type="checkbox"/> ペアやグループ等、仲間と考え合ったり、話し合ったりして、課題を解決したり、できるようになったり、分かるようになったりしていますか。	A	78.1%	交流することの必然性が感じられる学習過程を仕組むこと。教師側の意図を明確にして指導を進め、交流することで深まった考えや意見について価値付けていく。
			ウ:授業→復習→授業のサイクルを習慣化し、学力を高める家庭学習の充実(家庭学習の習慣化)	<input type="checkbox"/> 学校の授業と家庭での学習のつながりができるよう家庭学習について指導の充実に努めている。	B	66.7%	<input type="checkbox"/> 進んで家庭学習に取り組み、できることや分かることを確かめたり、増やしたりしていますか。	B	71.5%	授業の終末での見届けが家庭学習につながるように意図的に仕組む。引き続き、毎日の確認、見届けを続けることで継続を促す。期末テスト前の学習会を意図的に家庭学習につなげる。
		②豊かな心の醸成	ア:物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める授業	<input type="checkbox"/> 児童生徒が自己の生き方についての考えが深まるよう、単位時間の授業の指導方法改善に努めている。	B	67.9%	<input type="checkbox"/> 自分の思いや考えと仲間の考えや思いを比べたり、仲間の思いや考えを聞いたりして、自分の思いや考えを広げたり、深めたりしていますか。	B	71.0%	道徳の授業作りについて各学年会を中心に指導方法の改善に努める。日常生活と結びつけた道徳指導になるよう振り返りによる自己見つけをさせる。
		③運動に親しみ、進んで健康安全に取り組む指導	ア:継続して取り組み、体位・体力の向上が実感できる指導 イ:タイムマネジメントでき、自らの健康管理ができる指導	<input type="checkbox"/> 朝の時間、業間休み等、継続して運動に取り組む機会を位置付けている。(小) <input type="checkbox"/> 家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりが構築できるよう指導している。(小・中)	B	71.4%	<input type="checkbox"/> 昼休みは、運動場で進んで運動していますか。 <input type="checkbox"/> 必要な睡眠時間をとっていますか。	B	70.6%	保健の授業、保健便りなどによって、生活習慣の見直しを提案する。昼休みの運動の実施(ボールの貸し出し)。部活動の充実、安全指導。
		④国際理解教育の推進	ア:小学校の担任による外国語活動の実践(小学校) イ:All Englishによる授業の実践(中学校)	<input type="checkbox"/> 英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする活動を位置付けている。 <input type="checkbox"/> 生徒の発達段階を踏まえたAll Englishの授業を行っている。(中)	B	62.5%	<input type="checkbox"/> 英語を使って進んでコミュニケーションをしていますか。 <input type="checkbox"/> 英語の授業では、ほぼ英語だけで学習しようと努めていますか。(中)	C	59.0%	Classroom Englishを確実に使うようにする。導入場面では、Oral Interactive Introductionをする。英語を使って説明や指示をする場面では、必ず英語を使うようにする。
⑤特別支援教育の充実	ア:保護者、医療、福祉等関係機関との多様な連携協力を通して、一人一人の育ちを支援する教育の充実	<input type="checkbox"/> 配慮を要する児童生徒に対して、具体的な配慮事項を明らかにし、それに応じた指導支援を行っている。	B	73.8%					カウンセラーや支援員、スマイルとの連携強化。ケース会議などの実施 長欠報告の徹底	
目標2	他者と共に社会の持続的な発展を牽引できる多様な力の育成	①キャリア教育・立志教育の推進	イ:一人一人の願いを支援し、自己充実感につなぐ指導	<input type="checkbox"/> 児童生徒の言動のよさを認めるとともに、その言動に至る願いや思い、過程等のよさを価値付けている。	A	81.0%				全校集会や放送等を通しての願いの共有については継続していく。自己をみつめる学活等を仕組み、自分自身の願いを明確にさせた上で目標をもたせ、やりきらせる指導を徹底する。
		②リーダーを育成し、児童会や生徒会の充実を図る	ウ:学級や児童会・生徒会役員等のリーダーとの懇談を充実し、願いを実現につなぐ指導	<input type="checkbox"/> 児童会等、リーダーの願いを学校内で共有する場を位置付け、目指す姿の具体を共有する等して、学級学年・学校全体でその実現に向け支援している。	A	79.8%	<input type="checkbox"/> よりよい学級をつくろうと、目標に向かって仲間と共に話し合ったり、活動したりしていますか。	B	73.3%	・リーダーが繰り返しの語り(朝の会、帰りの会)を行う。 ・中間反省や月の活動についての話し合い、行事ごとの振り返りなどの学活の仕組み方を考える。・目標の統一化(学校目標や方針とも絡める)
		③各学校の特色ある活動の推進	イ:児童生徒が自治的で自立的な活動をつくりあげる指導	<input type="checkbox"/> 「柱となる活動」の目指す姿の具体を児童生徒と共通理解し、児童生徒が自慢とする活動になるよう、常に願いや具体的な目指す姿と活動を結びつけて価値付けている。	A	77.4%	<input type="checkbox"/> 学校の4本柱(あいさつ・掃除・合唱・授業)とボランティア活動が、本物の宝になるように、進んで取り組んでいますか。	B	70.1%	学級の柱となる活動について見直し、一点突破をはかる。活動の価値を理解させ、日常とのつながりを意識した指導、やりきり指導にこだわる。
		④児童生徒の自己指導能力を高める指導	イ:仲間と協力し、目標に向けて粘り強く取り組む活動の推進	<input type="checkbox"/> 仲間とかかわり合い、目標に向けて粘り強く取り組む活動を位置付けるとともに、価値付けや方向付けを行い、個の変容を見届けている。	A	76.2%	<input type="checkbox"/> 自分が立てた目標に向かって、仲間とかかわりながら粘り強く取り組んでいますか。	B	73.2%	・目標、努力、発見の教室掲示をつくる。 ・仲間と共に達成する目標をつくる、振り返る場を位置付ける。 ・授業中での学び合いを積極的に取り入れることで、関わり合いを増やしていく。
		⑤いじめ・不登校防止や解決のための継続的な指導	ウ:いじめの早期発見と組織を生かした継続的な指導	<input type="checkbox"/> 「いじめ」に係る人権感覚を高め、児童生徒の状況を把握するとともに、意図的な取組による個の居場所づくりと集団の絆づくりに努めている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の状況の把握や早期の相談の機会の設定等未然防止策を全職員で取り組んでいる。	A	78.6%	<input type="checkbox"/> 仲間が嫌だなと感じることを言ったり、したりせず、仲間がうれしいな、もっとがんばりたいなど思うようなことを言ったり、したりしていますか。	A	77.9%	学校生活アンケート、QUなどの実施、分析、活用。 2者懇談、3者懇談の定期的な実施。 相談室、カウンセリングの活用。 学級ごとの教科担任会や臨時ケース会の実施。
目標3	活力ある地域コミュニティを構築するためのスポーツ・文化活動の充実	②年齢を縦に繋いだ地域の教育力の向上	ウ:地域で子どもの学びと絆づくりを支援するキッズウィークの推進	<input type="checkbox"/> ボランティアの方が学びを支援したり、児童生徒が地域で学ぶ機会に進んで参加したりできるように働きかけている。	B	69.0%	<input type="checkbox"/> 地域の様々な行事に進んで参加していますか。	A	89.6%	・JRC委員をもっと動かし、郊外生徒会をうまく活用して、ボランティアの推進を継続、発展させていく。
		③家庭の教育力の向上	ア:ボランティア手帳の活用と一家庭一ボランティア実践	<input type="checkbox"/> 学校や家庭・地域のボランティア活動の意義を語り参加するよう児童生徒に働きかけている。 <input type="checkbox"/> ボランティア手帳を適切に活用させている。	B	72.6%	<input type="checkbox"/> 学校や家・町内でのボランティアに進んで参加していますか。	A	79.4%	・JRC委員が主導とした手帳の使い方を含めた見直しを図る。 ・部活動を優先させるのか、ボランティアを優先させるのか生徒では判断が付きにくい時があるので、時期を考えて行う。
		⑥豊かな心を育む教育の推進	ア:今日的な人権課題に基づいた人権教育の推進	<input type="checkbox"/> 児童生徒に寄り添い、適切な言動で指導・援助している。	A	76.2%	<input type="checkbox"/> 学校や家庭や近所で、「あったか言葉」で話していますか。人を傷つける言葉は言ってはいませんか。	B	73.9%	教師の言葉遣いの見直し、改善。 教師による良さ見つけの充実 2者懇談、3者懇談の定期的な実施。
目標4	学びや育ちを支え、誰もが社会の担い手となるセーフティネットの構築	①健康な体づくりの推進	ウ:学校生活管理票の作成と活用	<input type="checkbox"/> 学校生活管理票をもとにして、該当児童生徒をはじめ、配慮を要する児童生徒を確実に把握し、保護者との面談等を通して確実に対応している。	A	76.2%				アレルギー対応の生徒について再度共通理解を徹底する。フツ化物洗口の実施。
		②学校防災体制の充実	ア:場・時・役割や想定を幅広く考え、工夫して行う防災訓練(命を守る訓練等)の実施	<input type="checkbox"/> 「命を守る訓練」、「町防災訓練」、各教科での防災に係る指導等を通して、年間を通して、自ら危険を回避する力を高められるよう指導している。	A	83.4%	<input type="checkbox"/> 自分の命は自分で守ろうと、「命を守る訓練」や「町防災訓練」に進んで真剣に取り組んでいますか。	A	79.6%	命を守る訓練の実施(地震、火災、津波、不審者など)緊急時対応の在り方指導(とっさの判断での動き方)
		③いかなる状況下でも「自分の命は自分で守る」意識の醸成	イ:自転車の安全利用の推進、損害保険への加入等、交通安全意識の高揚	<input type="checkbox"/> 全教育活動を通して、交差点ではドライバーとアイコンタクトするなど、「自分の命は自分で守る」意識を高める指導を行っている。	A	79.8%	<input type="checkbox"/> 自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶっていますか。 <input type="checkbox"/> 交差点では、「ドライバーとのアイコンタクト」に心がけていますか。	A	89.3%	年度当初に自転車運転教室の実施。自転車点検の定期的な実施。 登下校指導の充実 日常的な交通安全指導の継続(昼の放送を活用して啓発)
		④学校施設設備の整備	イ:学校安全点検の実施と確実な修理	<input type="checkbox"/> 「手」、「目」、「耳」で確かめるなど、遊具や運動施設の安全について確実に確認している。 <input type="checkbox"/> 普段あまり使用しない設備も含め、設備すべての危険箇所・修繕箇所の状況を把握し、確実に対応している。	B	72.6%	<input type="checkbox"/> けがをしないように、学校グラウンドや中庭のバスケットコートなどの施設や体育館施設を使っていますか。	A	87.9%	校舎のサッシ取り換え 定期的な安全点検の継続。 活動前の安全点検の実施。
		⑤情報活用能力の育成	ウ:ICT及びデジタル教材の効果的な活用	<input type="checkbox"/> 興味・関心を高め、「できた、分かった授業」につなげるため、デジタル教科書や電子黒板等を積極的に活用している。	B	66.7%	<input type="checkbox"/> 電子黒板やデジタル教科書、パソコン、TVなどを使った授業で、勉強が分かりやすいですか。	A	82.4%	・教師間で使用状況に差がある。意識的に使うようにしていく。 ・教師がタブレット等を使用する場面は多いが、生徒がタブレットを使用する場面は少ない。パソコン室にある生徒用タブレットをもっと活用していく。